

委員会だより

<10月5日(日) 12名出席>

【1】財務報告：97年9月決算報告を委員会了承。
 特記事項：(1)建設献金は、信徒各位のご協力により9月現在で1,179,200円となり、対予算(1,100,000円)で、107.2%となった。
 (2)9月度の特別献金として、山崎神父様より77,000円、また敬老献金として多くの方々より、合計14,000円の献金を頂いた。

【2】お知らせコーナー：

- (1)9月14日に開催された敬老会は、盛会裏に終了し、好評を頂いた。関係各位のご努力に深く感謝(清水さん)
- (2)第5回目バザー委員会を9月20日に開催した。
 ・「バザー券」は、9月27日7:00pmのごミサ終了後から発売開始しているが、9月28日現在で、113冊×1,000円/冊=113,000円の販売状況にある。もう一息であるので、各位のご協力をお願いします。
 ・小谷さんよりご提案頂いたバザーのちらしの件は、次回バザー委員会で検討する。
 ・次回バザー委員会は、10月18日(土曜日)10:00am。
 ・バザー前日、当日のごミサ時間：
 10月25日(土曜日)4:00pm(臨時)、7:00pm
 10月26日(日曜日)7:00am、9:00am

(3)教会前庭の駐車許可の件：

・手話の会(「鈴」)に対しては木曜日に、卓球愛好会に対しては火曜日に、それぞれ有効期限を平成10年3月31日として許可証を発行した。

(4)「聖歌の集い」実行委員会：

・10月5日に準備会議が開催されるが、石井さんが出席する。
 ・若い方に参画して欲しい旨石井さんより要望あり。

【3】お話し合いコーナー：

(1)山崎神父様お祝いの件：

・山崎神父様が12月21日に叙階40周年を、また12月11日に80歳の誕生日を、をそれぞれ迎えられる。
 ・審議の結果、本年度のクリスマス・パーティーの席で併せてお祝いすることとなった。これに向けて、お祝い及び霊的花束の準備をスタートする。
 ・クリスマス・パーティーの段取りは、例年通り委員会が担当するが、婦人会、壮年会のご協力を宜しくお願いします。

(2)教会委員の改選：

・教会委員の任期は本年度いっぱいである。
 ・神父様、壮年会長、婦人会長からなる教会委員選出委員会で、改選に向けての審議が行われる。

(3)七五三のお祝い：

・本年度は、当該年齢に関係なく、子ども全員を対象にお祝いする方向で進める。

(4)オルガンの位置(及び向き)の件：

・小谷さんより課題提起頂いたオルガンの位置の件は、審議の結果、諸般の都合を勘案して現状通りとすることとした。

壮年会だより

<10月19日(日) 11名出席>

1. 財務報告
9月分決算報告
2. 敬老会(9月14日)の御協力有難うございました(清水委員長)。
3. バザーについて
①バザー前日(25日)の会場設営の手順、及び当日の各食べ物の売り場の担当者の決定。
②教会近辺に掲示する「バザー案内ポスター」作成を小谷さんをお願いします。
4. 教会委員の任期満了に伴う改選
教会委員選出委員会(神父様、婦人会長、壮年会長)を設けて対応する。
5. 『七五三』
該当の子供さんが少ないため全員に千歳飴を配布する。
6. クリスマス・パーティー
山崎神父様の叙階40周年祝と誕生日祝を併せ実施。
7. 第5地区宣教委員会
地区教会マップを作成中、12月完成予定(七浦さん)
8. 一粒会報告
一粒会献金合計額 - 269,141円(小谷さん)

婦人会だより

<10月19日(日) 29名出席>

- ・委員会報告
 - ・一粒会大会(第30回)が9月23日行われ、当教会からは11名の出席がありました。課題は「神の呼びかけに素直に応えよう」浜尾司教様始め14名の神父様方が出席されました。
 - ・同志会よりのお知らせ
11月6日(木)午後から静岡のカナの家訪問、「知的障害者と共に生きる」「彼らに目を向けよう」の課題で行われます。出席なさる方は、静岡駅より送迎バスがあります。
11月13日(木)「差別について」由比ヶ浜教会の古川神父様講師、於カトリックセンター
 - ・バザーについて
23日：ケーキ作りを地区センターで1時から行います。参加下さる方は、マスク、三角巾、ハンドタオル、エプロン等を御持参下さい。
25日：バザー前日のお手伝いを午後1時からお願いします。カレー作りはエプロン会の方を中心に行います。
26日：バザー当日、お手伝いの方は9時迄に集合して下さい。
 - ・11月7日(初金)10時から、亡くなられた婦人会員の為のミサが捧げられます。ご都合の付く方は、ミサにあずかって下さい。
 - ・会費 未納の方は納入下さい。
- 次回例会は11月16日(日)、次回当番はD地区です。



第230回

カトリック中和田教会
 広報委員会発行
 泉区中田北1丁目9-1
 Tel. (045) 803-6141
 1997年11月12日

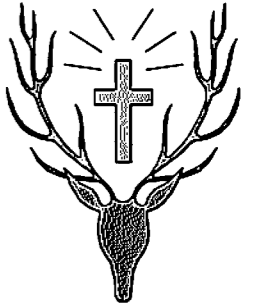
今月の予定

死者の月	11月 2日
委員会	11月 9日
七五三	11月 16日
サロン	11月 9, 23日
レジオ	11月 14, 21, 28日



トルストイと共に

山崎 正俊



思えばこれは、六十年も前からのことでした。私にとってのトルストイは、人生の転機を与えてくださった大切な人です。カトリック教会では、目のカタキにしているようでした。私はいまでは後に引きかえすつもりはありません。ますます強く捕らわれ、カトリックの司祭として励みつづけています。それでも、キリストの愛の教えに関して云うなら、トルストイがその生涯を尽くして主張しようとしておられることこそ、生命の与え主に近く生きるための「心のささえ」なのです。

戦後になると、『人生の道』に再会できることになり、この北御門(キタミカド)さんのトルストイによって、その心は燃えあがることになるのです。いつでも、神様は「思いやりの心」に、徹しつづけるようにすすめ、その身にそなわってきた才能や能力は、他の人と支え合い援け合うためのものとしてくださっているのです。戦争中は、戦地に行かされていた若者としての私は、「これは自分たちの祖国・日本を守るための責任を果たすためだと信じていました。このような教えと習慣が大切にされていたのは、そして、いまでも国の指導者たちが大切にしているのは、神様の定めへの本当の従いかたについて、何も反省するところがなかったからのこと。

私にキリスト様のことを説明し、洗礼を授けてくださった、若い元気な神父様は、御自分の経験からか、「しかたがないよナ。ちょうど、その順番に当たっていたのだから」と、つぶやいておられたことを、私は、決して忘れはしません。「いちばんよい勉強のときなのに、それを、こうしたことで失わされることなど、つまらぬことだよ」(ものは考えようによるのですが、他にすることはなかったのでしょうか。もっとも、国家のリーダーたちの考えにタガうことは認められなかっただけでなく、批判することにも、反対することにも、気がつかないことでした。)

私が、いまのように、はっきりと云えるようになったのは、北御門さんの情熱が(福田信夫さん、そして、磯谷武郎さんたちの誠実さと人柄、『トルストイ文庫』をとおしての暖かさによって、神様の得難いおだやかな御摂理・『おくりもの』として)、私のうちに流れ込んできたからです。私の道は、このようにして、その軌道の修正が、はじめられることになるのです。

それまでの国の方針によって、伏せられたり隠されたりされていたものが、書き起こされ補われる時代に助けられ、体験もかさねられることもあって、わからぬままに犯罪を犯していたような在りかたの反省もさせられ、ツグナイを果たしオコナイを改めることもはじまり、ときとしては、まわりを気にすることもなく、思い切ってモノが云えるようになるのは、(老化のためか、お迷惑をおかけすることが、すくなくとも)、(他の人をおしのけるような競争は、してはならない)などという生き方のなかで、この世の生命をまっとうされようという思いのせいです。

11月号の発行が大変遅れましたことをお詫び申し上げます。(E.I.)



あの日の満月

小山 雄悟

最近めっきり冷え込むようになりました。日が暮れるのも急に早くなったような気がします。夜空に張り付けたような冬の満月を見ていると、阪神大震災を思い出します。

あれからもうすぐ3年になりますが、当時の月だけは、今でもよく覚えています。前日の夜10時すぎ、西宮市内の自宅付近を車で走っていたのですが、気味悪く赤い満月が出ていました。それから数時間後、電気の消えた街を青い満月が勝ち誇ったように照らしていました。

テレビや新聞等で克明に被害状況が報道されたようです。でも、唸り声のような地響き、倒壊した家屋の静かさ、漏れたガスの臭い、などなど伝えられていないこと、伝えられないことは山ほどあります。

本当は、あの廃墟となった場所で何が起こっていたのか、自分自身も含めて、誰もそのすべてを人に伝えることはできません。ただ、あの満月だけはすべてを知っているような気がします。

今年4月から東京に転勤してきましたが、震災の経験を生かして一応の備えが出来上がっているようです。

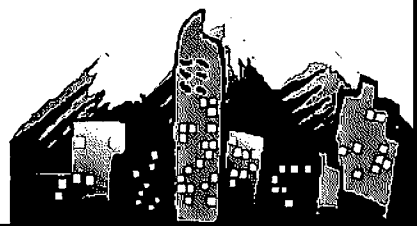
率直な感想を言えば、あの地響きですべての備えは崩れてしまって役に立たないのではないかと、という無常観と無力感がこみ上げてきます。

それは自分の弱さからくるのでしょうか、それともすべてを経験したつもりになってしまう人間への不信感からくるのでしょうか。

視覚障害者のボランティアに参加したとき、目が見えないことと目が見えるけれども目を閉じていることとはまったく違う、という話を聞いたことがあります。

あの日の満月を見た自分も、案外その違いを無視して、震災で本当に苦労した人たちの気持ちに土足で上がり込むようなことをしているのではないか・・・

すべてを知っている満月は、今日も自分に反省を促して、夜空に張り付けになっています。



速報

バザー報告

今年のバザーは晴天のもと、大勢のお客様をお迎えし、大盛況のうちに終了致しました。ひとえに皆様の御協力のおかげと心から感謝申し上げます。

概算ですが、収益は下記の通りとなりましたのでご報告致します。

収益 60万円 (概算)

バザー委員長
甲斐 至信

お知らせ

洗礼 (10月12日) まみ
 > ベルナデッタ 森脇 真美 (1月23日生)
 (御両親: 森脇 信行、彰子)

転入 (10月)
 > ルチア 横塚 郁子
 〒245-0061 戸塚区汲沢8-18-5 (元住所)
 Tel. (045)864-3691

結婚
 > ヨゼフ 山田 祐司
 平井 優子
 9月13日 於 京都教区 三条河原町教会
 新住所
 〒523-0892 滋賀県近江八幡市出町414-7
 フラワー2番館239号
 Tel. (0748)34-8989

宗教音楽の歴史 (No.1)

初期キリスト教音楽



音楽は、人類の生活が始まって間もなく、言語や絵画と共に存在していたと言われる。少なくとも、古代におけるエジプト・メソポタミア・ユダヤ或いは中国やインド等には、宗教・儀式・狩猟・舞踊などに結びついて、音楽が行われていたことが、考古学的に明らかにされている。特に古代ギリシャにおいては、音楽は詩や演劇などに結びついて、ムシケ(ミューズ女神の技)として尊重され、その楽譜もいくつか今日にまで残されている。プラトン・アリストテレス・ピタゴラスなどの哲学者・科学者たちは、音楽の本質・倫理性・音響の物理的基礎などについて考究し、音楽理論を体系づけようと試みた。

しかし、このようなギリシャ音楽も、やがて次第に衰え、特にローマにおいては、音楽は娯楽として利用され、実生活上の効用面のみが強調されて技巧的なものになっていった。

一方、新しくおこりつつあったキリスト教徒の間には、精神的な音楽が生まれてくるようになった。

ローマ帝国が最盛期に向かう頃成立したキリスト教は、その始めから音楽を重用した。ローマ治政下における迫害のさなかに、カタコームに集まって、神へ祈り、信仰の団結を誓いあつた信徒たちが、おごそかに口ずさんだ聖歌は、まだ形の整わない素朴なものであつたが、やがて、グレゴリウス聖歌として大きく成長し、中世時代に発達する宗教音楽の中核的なものとなっていくのである。

この初期の聖歌には、詩編を朗唱する詩編唱とギリシャ起源と考えられる賛歌とがあつた。いずれも、単旋律の音楽で、自由なリズムで、伴奏もなかつた。もちろん和声的な要素は全くない。

ローマではキリスト教が313年に公認され、次第にカトリック教会の組織が統一され拡大されていったが、それに伴って、典礼の形式とそれに用いられる聖歌も整えられるようになった。この時代、聖歌にはまだ地方性が残っていて、それぞれ特定の方式で歌われる場合も多かった。しかし4世紀の後半に、ミラノの司教としてアンブロシウス(339頃-397)があらわれ、これらの聖歌にある種の統一を与え、ミサに用いられる音楽が形式的にもまとめられるようになった。彼は教会旋法の内の4種を定めたといわれ、また交唱形式を東方から取り入れたりもした。しかし、彼の行なつたこれらの活動も、ミラノを中心とする地方的なものにとどまり、後のローマ教会の行なつたような広い範囲にゆきわたるようなことはなかつた。

アンブロシウスが死んだ397年以降、グレゴリウス1世(540頃-604、在位590-604)が現れるまでは、キリスト教音楽についての資料は少なく、その内容についてははっきりしていない。その数世紀の間に、ローマは東西に分裂し、ゲルマン民族の移動によって西ローマは滅亡し、東ローマは、いわゆるビザンツ帝国として、独自の教義と政治形態をもつ国家として進んでいくことになる。西ローマ帝国の衰運期に、ローマ教会はその勢力を伸長し、中世ヨーロッパ社会の指導的な立場をとることとなるが、それにつれて音楽もまた、アルプスを越えたところで豊かな花を開いていくようになる。

グレゴリウス1世がローマ教皇として在位した時期(590-604)には、すでに、ゲルマン民族の移動もほぼ終わり、それぞれの民族によって建てられた国家が、それなりに一応の安定を見せた時代となる。東方にはまだ東ローマ帝国が健在であり、教会権の確立はまだ弱かつた。しかし、次第に形成されつつあつた西欧世界との交渉によって、中世の教会支配への第一歩を確実にふみ出していった。

グレゴリウス1世の名にちなんで、ローマ・カトリック教会の典礼音楽をグレゴリウス聖歌とよんでいるが、そのすべてが彼自身によって行なわれたのではなく、それまでに代々集積されてきたものが、彼の名のもとに集大成されたものと考えべきだろう。しかし、彼の教皇在位時代に、彼の行なつた各種の活動は、西方教会の権威を西欧世界に広めた点で大きな意味が認められ、そこに、グレゴリウス聖歌の発展が約束され、ローマ・カトリックの荘厳な典礼音楽の花が開かれていくこととなるのである。

ミサ当番表 (97年11、12月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	主日	朗読、奉納	オルガン
11/2	死者の日	七 浦	美 底	12/7	待降節第二主日	小野寺 美 底
11/9	年間第三十二主日	青年会	石 川	12/14	待降節第三主日	青年会 石 川
11/16	年間第三十三主日	婦人会D地区	森 田	12/21	待降節第四主日	婦人会A地区 森 田
11/23	王であるキリスト	富田(社)	大 宮	12/24	主の降誕(夜半)	青年会 大 宮
11/30	待降節第一主日	婦人会D地区	岩 淵	12/28	聖家族	宮 崎 岩 淵

※当番の方は10分前には集合して下さい。
 ※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。(萩原: Tel. 802-6258)